

N I E 実践報告

～「社会の中で生きている人々」～

上田市立東小学校 翠川俊樹

1 実践のねらい

N I E 実践の2年目の今年は、新聞記事に登場する、様々な人々を教材として考えていくこととした。

学校で子どもたちは、教科道徳だけでなく、清掃など様々な学校生活のなかで、様々な要素を含んだことを学んでいる。学校の中で子どもたちには、学校の学習、生活の中で、目標願いをもち、自分の力を生かして生活しようとすることを学んでほしいと願っている。しかし、子どもたちの中にはその学んでいることに、意味をなかなか見いだせなかったり、今の自分にとらわれたり、他の人にどう映るかにとらわれたりして、学ぼうとする子どもも窮屈に感じたりしている場合がある。

新聞には、しばしば人物に関する記事が掲載されている。その記事には、学歴や、性別、障害にとらわれず自分の目標に向かって努力している人。人々の賞賛があるなしに関わらず、一つの物事に取り組んでいる人々が取り上げられる。そうした、自分の今の力を生かして、生活している人々の記事にふれる中で、子どもの心に感じるものが少しでもあればと願った。

2 単元展開

・実践時期 11月～2月

・新聞購読方法

1ヶ月に3紙～4紙を5ヶ月。

学習活動	ねらい・考察	留意点
1 自分で読んで読んでみたい伝記を選び、その本を読んだ感想を書いたり、お互いの感想を聞きあう (3時間)	○自分の関心のある人物を選んで読ませる中で、登場する人物のぶつかった困難に気づかせたり伝記にでていたのはそうした困難に出会いそれを生かしていった人物が多いことに気づかせたいと願った。	図書館にある本でも家にある本でもまた、雑誌などに載っている本からでよいこととした

2 新聞記事に登場する人物から、その人物の姿から感想を書く (2時間)	○伝記にでている人物だけではなく、現在にも困難があっても、また、自分のいる状況の中で目標に向かって努力している人々がいるということに気づいてほしいと願った。 ○教師が見つけることが多かった。なかなか子どもたちの力で見つけるということは難しかった。	教師が見つけてくることが多いが、子どもたちの中で見つけてきた場合は多いに取り上げる
3 長野オリンピックパラリンピックの記事から、自分の心に残った選手について、記事をあつめ新聞を作る。 (5時間)	○長野オリンピック、パラリンピックの選手で何が心に残ったのかを大事にして新聞記事を作つてほしいと願った。 ○子どもたちの中には、マスコミに騒がれたということの印象だけでなく、過程に目を向けている子もいた。 また、晴れやかな表彰台に立つということはないが、自分の力をいっぱいに使って取り組んだ、選手たちにも目が向いた子もいた。	○困難があるかとかそういうことに、意識的には目を向けさせなかった。

3 実践を振り返って

- ・教師のねらいにとらわれすぎず、長野オリンピック・パラリンピックでの自分が関心を持った選手についてまとめたりすることや、様々な人物について深く考えなくとも、そうした人々について、新聞を読むことでふれることができるのだということがわかったことがよかったと思う。
- ・子どもたちの中には、学校で学んでいること、目標としていることが、達成しなければ、生きていけないのではないかと、生きていくためになくてはならないことなのではないかと感じている子がいる。それは、教師自身がそう思つて接していることも原因としてあ

るのだろう。だから、がんばっている子でも窮屈に感じたり、達成できないことで自分に目を向けることがつらくなったりするのかもしれない。

社会には多様な生き方をしている人がいて、それぞれ自分の力を生かして生きているのだということを、これからも新聞記事の中に取り上げていただければと思う。

- ・ 2年間の実践であったが、自分としては教師の記事を取り上げる角度がはっきりできること、テーマに沿って記事を見つけたり、まとめたりする力があることが大事だと思った。その中で、子どもたちは記事をまとめるということに関しては、他の教科の学習でもそうした時間があり取り組みやすく、まとめること自体に、意欲があった。しかし、自分のねらった記事を見つけるということが難しかった。